



代表幹事 **平田 賢太郎**
〒510-0954 三重県四日市市采女町 430-3
平田技術士・労働安全コンサルタント事務所
プロセスインテグレーション(株)代表
TEL 059-346-8818
FAX 059-346-8818

巻 頭 言

三重県支部として活動します！



三重県技術士会代表幹事
平田 賢太郎
(化学部門)

会員の皆様、お元気でお過ごしのことと思います。皆様のご協力のお蔭をもちまして平成26年度の事業を無事終了、この間

の問題点・課題を顕在化、総会の結果を平成27年度計画に反映させることが出来ました。本年10月には、公益社団法人日本技術士会中部本部三重県支部を発足させます。1年前にも記述しましたが次の5つの問題点を改善していきます。

- ・会員数漸減
- ・人材バンクへの登録者数均衡
- ・例会、テクノカフェ等の会員講師選定に苦慮
- ・スピード不足と役割分担曖昧

・20年後のありたい姿を意識した顧客創成と事造り・掘り下げが不十分
そのため、委員会(図1、図2)を創設し、役員の役割をより一層鮮明にします。以下に総会でコミットした基本方針並びに具体的活動指針につき記述します。

1. 基本方針

- 1) 日本技術士会の理念に基づき、技術士が可能な社会的貢献を目指す。

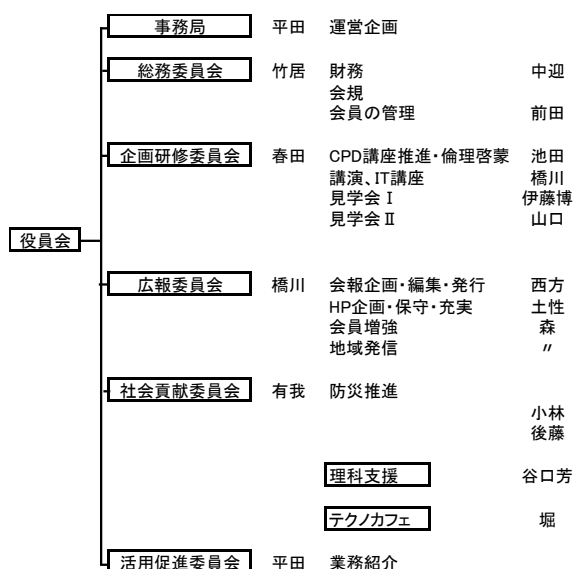


図1 三重県支部の組織および担当役員

氏名	役職	委員会	小委員会
平田賢太郎	支部長	基幹部長・活用促進委員会委員長	
竹居信幸	副支部長	総務委員会委員長	
森田英一	〃	企画研修委員会委員長	
山口豊吉	〃・幹事	企画研修委員会委員	
有金 明	〃・幹事	社会貢献委員会委員長	
横川勝規	幹事	広報委員会委員長	
中川 誠	〃	総務委員会委員・会計	
前田 持	〃	総務委員会委員	
伊藤 博	〃	企画研修委員会委員	
池田和人	〃	〃	
西方伸広	〃	広報委員会委員	
土佐弘明	〃	〃	
森 重広	〃	〃	
小林祥二	〃	社会貢献委員会委員	
後藤隆男	〃	〃	
谷口芳和	〃	〃	理科支援委員長
堀 貴	〃	〃	テクノカフェ 〃

図2 三重県支部の役員の役割

- 2) 組織力向上を図る。
- 3) 会員の継続的研鑽を図り、思いを反映する。
- 4) 会員間、諸団体とのネットワークを拡大する。
- 5) 役割を明確化し、全員参加により会の活性化を図る。
- 6) 顧客を創成し、事造りへチャレンジする。
ー 20年後のありたい姿を思い、10年間の行動計画を考察
2. 具体的活動指針
- 1) 社会貢献を図るために、防災分野はじめ積極的に技術士活動の紹介を対外へ行う。
- 2) 総会1回、例会4回を開催し、各種情報提供、会員相互の情報交換・親睦を図る。
- 3) 会員自身の技術紹介を主とし、外部招待講演により研修を充実する。
- 4) 三重県内外企業の工場、工事現場等の見学会を年2回実施し、見聞・見識を広げ、かつ深める。
- 5) 会報の定期発行（年3回）により会員への情報提供及び会員間の情報交換を図る。
- 6) 外部からの技術相談、業務委託に積極

的に対応する。

- 7) ホームページを適宜更新し、充実を図る。
- 8) 理科支援特別講義への積極的な参加を行う。登録者の拡大を図る。
- 9) 新合格者へのアプローチ及び会員の紹介等による新会員増強を図る。
- 10) IT研究会の定着化および推進
- 11) みえテクノロジーカフェの定着化および推進

地域産学官と技術士との合同セミナーレビュー！

本年11月に、中部本部地域では一昨年の岐阜に引き続き約10年振りに三重県担当で開催することとなり、昨年5月より、準備を進めて来ました。岐阜開催でのチラシ、10年前の津での合同セミナー冊子、そして5年前の四日市での全国大会の主催経験の一部を叩き台として来た中でメインテーマとして、幾つか候補に挙がりましたが、最終的に「エネルギーと環境問題」としました。基調講演2テーマの一つは水素エネルギー関連で産業界にお願いしましたが、その選定では、困難を極め3社目で漸く決定されました。大学関連では全国大会に引き続き、三重大学でお世話になります。行政関係では、当然乍ら御膝元の三重県の政策を入れて戴くこととしました。基調講演とパネルディスカッションを骨格としますが、パネリストとコーディネータからもプレゼンしていただくこととしております。地域総力の結集の観点より、22団体様より後援のご了解を戴きました。作成中のチラシを図4に示し、当日のプログラムを次に紹介します。

平成 27 年度 地域産学官と技術士との合同セミナー
エネルギーと環境問題
ー 産業界・行政・科学者・技術者の果たすべき役割と責務 ー

日時：平成 27 年 11 月 14 日（土）合同セミナー 13:00-17:15 交流会 17:30-19:30
場所：四日市市文化会館 （三重県四日市市）
主催：公益社団法人 日本技術士会



図 4 チラシの表面（土性幹事）
—— プログラム ——

日時： 11 月 14 日（土）

場所： 四日市文化会館

・合同セミナー 13:00～17:15

(1)開会宣言・三重県支部設立宣言

(2)挨拶 13:00～13:15

①日本技術士会会長、

②三重県知事、

③四日市市長

(3)基調講演 13:20～15:00

産業関係 (13:20～14:10)

東邦ガス株式会社 技術研究所

環境・新エネルギー技術総括

中村 義弘氏

「東邦ガスにおける水素ステーション
整備に関する取り組み」

大学関係 (14:10～15:00)

三重大学大学院

地域イノベーション学研究所

スマートキャンパス部門長 教授

坂内 正明 氏

「全学で取り組んだスマート

キャンパス事業」

(3) パネルディスカッション

15:15～17:00

パネリスト発表(行政及び技術士)

行政関係

三重県 雇用経済部

雇用経済企画総括監

大橋 範秀 氏

「三重県のエネルギー政策」

(15:15～15:35)

技術士関係 日本技術士会 中部本部

副本部長 平田賢太郎

「地球温暖化対策の不要が

貿易立国日本の生き残り途」

(15:35～15:55)

コーディネータ発表

三重大学 理事・副学長

研究・国際交流担当

鶴岡 信治 氏

「エネルギーと環境問題における

コンピュータの役割り」

(15:55～16:15)

ディスカッション

(16:15～17:00)

(4) 閉会の挨拶 17:00～17:10

閉会の辞：日本技術士会中部本部

本部長 渡邊好啓

・交流会

17:30～19:30

各講演内容は、論文形式で予稿集として作成依頼中ですが当日配布の冊子に織り込まれます。今、一番心配してますことは当日

の参加者数（100 名以上を予定）です。チラシ、ポスターの作成配布を通し広報して行きますが、会員皆様のご参加をよろしくお願い申し上げます。



図5 総会の雰囲気

以上

みえテクノロジーカフェ のこれから

幹事 堀 豊（化学部門）
一般市民（児童・生徒・学生含む）への科学技術に対する理解と普及促進並びに技術士の知名度向上に寄与することを目的に社会貢献活動として、今まで 14 回のテクノロジーカフェを開催しました。

みえテクノロジーカフェ実績

- 第1回目**（H24. 12. 2） 伊藤博
「道路環境と交通事故を起こさないために」
- 第2回目**（H25. 3. 17） 池田和人
「持続的な成長は可能なのか」
- 第3回目**（H25. 5. 19） 春田要一
「電池のお話」

- 第4回目**（H25. 7. 21） 江口正臣
「おしっこがでなくなったらどうしよう」
- 第5回目**（H25. 9. 21） 伊藤博
「なぜ橋の上を大丈夫に通ることができるのだろうか」
- 第6回目**（H25. 12. 8） 谷口芳和
「電気と磁気の不思議な関係」
- 第7回目**（H26. 1. 19） 春田要一
「シェールガス革命で世界が変わる」
- 第8回目**（H26. 4. 6） 堀豊・裕貴
「高分子ってなんだろう」
- 第9回目**（H26. 5. 25） 西方伸広
「錆のはなし」
- 第10回目**（H26. 7. 27） 中迎誠
「地震の話」
- 第11回目**（H26. 9. 28） 橋川勝規
「インターネットは便利で危険」
- 第12回目**（H26. 11. 30） 岡田武彦
「台風のはなし」
- 第13回目**（H27. 1. 18） 山口昇吾
「空気と水のはなし」
- 第14回目**（H27. 4. 5） 土性弘明
「でんきを操ってみよう」

当初、会場確保に腐心し、参加者は少数で、ほぼ会員メンバーでした。会場を提供していただいています**理科実験スクール「タートル」** 臼田代表、話題提供者講師、会員・主催事務方のPRのおかげで最近の開催は、常連親子を含め 15～22 名の参加者となり、実験・実演もあるテクノロジーカフェとして定着しました。「子は親の鏡」と申します。我々が仮親となり、参加した子供たちがみえテクノロジーカフェをきっかけに科学技術者にあこがれを抱いてくれるよう期待します。また子供たちを通じ、親へのメッセージを発信できました。

みえテクノロジーカフェのこれからに関し、三重ならではの色をだし、さらに一般市民の参加者を増やしてゆきたいと思います。テクノロジーカフェは従来から行われている科学技術講演会・シンポジウムとは異なり、専門家と一般の方が茶菓をたしなみながら自由に気軽に語り合える場です。気軽に来られる場所と日時、来てよかった、楽しかったのでまた来てみたいと思っていただける内容と場の雰囲気を創ってゆきたいと思います。

第15回目 (H27. 6. 14 AM10-12) 平田賢太郎

「家庭の省エネ徹底ガイド」の開催は会場を近鉄四日市駅東側にある喫茶&レストラン「ラジカフェ」(radi café apartment)で行います。

面白いお話とおいしい茶菓、ランチもいかがでしょうか。ご家族、知人、関心ある方々へPRいただければ幸いです。

医師・弁護士はTV番組で連続ドラマ化されるほど知名度があります。これらは職業上、一般市民とコミュニケーションが上手くなければ仕事になりません。技術士は一般市民とのコミュニケーションの機会が少ない分、努力しなければ知名度向上は望めません。

技術士は公益のため多種多様の知識・考え方・意見を広く吸収し、自らの頭で考え、物事の本質を見極められる洞察力を磨き自己研鑽し、種々な場面で問題解決策を複数提案できるようにならねばなりません。是非みえテクノロジーカフェを利用させていただきますようお願いします。

話題提供者講師を募集いたします。存分に思いを語って、対話を楽しんでいただきたいです。またみえテクノロジーカフェの運

営に関しご意見(主催側幹事として協力も)をお待ちしております。

以上

平成26年度第2回 見学会結果

日 時：平成27年3月6日(金)

13:00～16:00

参加人数：11名

見学場所：

三重大学 フィールドサイエンスセンター

演習林 及び 関連施設

今回の見学会は「三重の力を世界へ～人と自然の調和・共生の中で～」と謳う三重大学の紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附帯施設演習林を訪ねました。今回見学企画のきっかけは、昨年の秋、東京ビックサイトでの“水イノベーション展示会”で三重大学出展小間にて、同大学大学院生物資源学研究科の幹教授と出会い、視察を紹介戴いた事です。

見学させて戴いた演習林は、三重県中部を貫流して伊勢湾に注ぐ出雲川の最上流水源地帯を構成する森です。規模は東西約4Km南北約1.5Kmの長方形状で面積約460ha、津市街地から南西へ約60Km離れている所です。

参加者の皆さんは、自家用車で現地直行する方と電車利用の方は、近鉄久居駅で合流、車2台に分乗して出向きました。久居駅からの移動は、途中で昼食をとりながらのドライブで約45Kmの行程。名松線に沿い終点の“伊勢奥津駅”を過ぎて、伊勢本街道を横切り更に出雲川沿いに進み、ますます山深くなっていきました。途中にはあま

ごセンターもあり、きれいな溪流が続きます。道路が徐々に狭くなりこの先が目的地か不安を感じながら、2時間近くかけてようやく、三重大学演習林に到着しました。



【 池で養殖中の“あまご”の大群 】

標高約551mにある施設建物前にはきれいな湧水池があり、職員の皆さんに加えてあまごの大群に迎えられました。

最初に研修施設に入り、平田代表からご挨拶申し上げ、大学職員の皆さんから当演習林の概要と、特徴などを説明受けました。

引き続いて、演習林の視察に出ました。研修施設がある場所を含めて平坦な所はほとんど無い急峻な地形です。



まず、スギ・ヒノキの平倉演習林について色々な説明を聞きながら、林道を上りました。上っていくと溪谷の向かい側の山は原生林で、素晴らしい眺望です。



山を下る途中では台風による大きな被害が残る所もあり、自然の力の大きさを感じさせられました。更に進むと、演習林の入口に近い所に、一番古い人工林がありました。これは、文化7年(1810)、当時の藩主藤堂高光の命で植栽された樹齢200年以上のスギの大木です。



三重大大学の案内パンフレットの中に「森林は多くの顔を持つ。山も川も土もずっと、その場と同じ状態にあるのではなく常に変

化している・・・そのバリエーションに気づく事が出来るのでしょうか？」とありましたが、見学会参加の皆さんは、如何感じましたでしょうか。好天気に恵まれましたが、花粉症の方には少々厳しい見学会であったかと、反省もしています。

以上
(山口昇吾 記)

第14回

みえテクノロジーカフェ

土性 弘明 (電気・電子／総監)

～電気を操ってみよう(^_^)/～

電気をうまく使うことで私たちの生活はどんどん豊かになってきました。いまや電気は生活に欠かせないものです。でも身近なようで身近じゃない。「電気って見えないから判らない。」という声を良く聞きます。今回、そんな電気を実際に見たり、触ったりして電気を自由に操ってみる。をコンセプトに説明と実験を行いました。

■電気とは 電気とはなんだろうか？電気は水のようなものです。この概念を知っていると複雑な回路もイメージしやすくなります。電圧は水圧、電流は流量に置き換えることで、目に見えない電気物理の現象を理解してもらいました。

■電気を見る。 実際にオシロスコープを使って普段見えない交流波形を見ていただく。実際に電気を使うとどんな変化が起きるか？電圧降下現象を見ることで電気の特徴を知っていただく。そして電気技術者が日頃、何を工夫しているのかを理解してもらいました。

■電気を作る。 コイルとネオジム磁石を用いて電気を作り、オシロスコープで見る。交流波形を目で見てもらい、レンツの法則、ファラデーの法則、フレミングの法則から電気が生じることを体感してもらいました。磁石がコイル中を上下するだけで電気が生じる。大きな火力発電所もこれと同じ原理で電気を作っていることを理解してもらいました。

■電気を操る。 レンツの法則に従い、磁石がアルミパイプ中をゆっくり落下する実験を行い、電磁気の基礎現象を体感してもらいました。その後、簡単なモーター作り、簡単な電車などの実習を行い、これらの現象が様々な機器に役立っていることを理解してもらいました。

■電気に触る。 安全が確保された感電体感装置を用いることで普段、絶対出来ない感電を体験してもらいました。手のしびれ感覚や年齢（みずみずしさ）によって電気の通りやすさが違うなど、電気の特徴を理解してもらいました。

■まとめ 電気は見えないが正しく使えば便利なもの。でも間違えると危険。それはどの技術にも当てはまること。技術は作る側、使う側、どちらも正しく使うことがとても重要なことであることを説明しました。

■感想 講師を務めたことで、自分自身も基礎に戻り勉強し直す必要があり、とても有意義な経験をさせていただいた。レンツの法則実験やモーター作りなど、物理現象を目に見える形にして説明することが、理解を深める上で大事な要素であること、そして理科実験の重要性をあらためて理解した次第です。子供の素直な反応、実験資

材作りなど、実は自分が一番楽しんだかも知れません。このような機会を頂いたことに感謝いたします。ありがとうございました。



平成27年度役員会（第1回）抜粋

日時：平成27年4月18日（土）

9：30～12：00

出席者：平田、春田、竹居、伊藤博、前田、有我、堀、橋川、西方、森、池田、土性(記)
場所：ホテルザグランコート津西研修室

<議事内容>

- 1.平成27年度総会の議事を確認した。
- 2.みえテクノロジーカフェの状況及び今後について報告がされた。今後、四日市「ラジカフェ」を新たな会場とすることで検討中である。
- 3.会報について78号を6月頃に発行する。
- 4.見学会（新名神工事）を担当で検討している旨を確認した。
- 5.産官学と技術士とのセミナーについて今後の予定、チラシ、ポスター案等を確認した。中部本部事務局を申し込み窓口としていくこととした。

6.各活動状況および会員動向について確認した。

平成27年度第1回例会講演会レジュメ (1)

「最近勉強した事 憲法」

池田和人（化学／総監）

私は主に化学プラントの設計・建設・製造等に従事してきた技術職の人間であります。今後改正の動きで世論が活発になるであろう憲法の本質を知ろうと思い立ち、ここ2年ほど暇を見つけて憲法の専門書を少しずつ勉強してまいりました。今回このような講演の場を提供下さいました方々、そして私のつたない講演に耳を傾けて下さいました方々、さらに様々な角度から興味深い質疑を投げかけて下さいました方々に心より御礼申し上げます



図 講演後の質疑応答

さて、憲法の歴史を遡りますと日本国憲法をはじめとする近代憲法の発祥は17世紀・18世紀の欧州や米国で起こった啓蒙思想と市民革命だと言われております。近代憲法は個人の尊厳を根本規範とする「自由の基礎法」であり、人民の権利・自由に対する国家の介入を制限する「制限規範」

であり、そして形式的にも実質的にも全ての国法秩序の「最高法規」であります。従い、憲法に反した法律や命令等は効力を有しないだけでなく、憲法改正を以てしてもこれらの基本原理を変えることは許されないとされております。

一方、人民の権利・自由に対する国家の介入を制限する「国家からの自由（自由権）」は時代と共に変遷し、人々は国政への参加を要求するようになります。これを「国家への自由（参政権）」と言います。そしてさらに20世紀に入ると自由な市場経済の中で経済的・社会的弱者が生まれ、人々は国家による保護を要求するようになります。これを「国家による自由（社会権）」と言います。日本国憲法をはじめとする現代憲法はあくまで「国家からの自由（自由権）」を基礎にしておりますが、「国家への自由（参政権）」や「国家による自由（社会権）」を併せ持った構成になっております。

ここで話題を日本に移そうと思います。日本で発布された初めての憲法は1890年（明治23年）に施行された大日本帝国憲法です。この憲法は戦後日本国憲法が制定されるまで運用され、この間大正デモクラシーをはじめとする民主主義運動が活発になりましたが、その後の日本は軍国主義化の道を突き進むことになりました。日本の軍国主義化につきましては現在も様々な角度から様々な研究がなされております。一方、太平洋戦争終結後はGHQによる占領体制の下で日本政府主体の松本委員会をはじめとする新憲法制定の動きが始まりました。しかし1946年（昭和21年）2月1日に松本委員会の新憲法案が毎日新聞にスクープされこの案が多くの特で大日本帝

国憲法の主旨をそのまま引き継いでいると判断されたことからGHQ自らにより併行して新憲法の原案が作られました。そしてこのGHQ案をベースに枢密院・衆議院で審議がなされた後、天皇の裁可を経て日本国憲法が公布施行されました。

日本国憲法は「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」を基本原理とし、先に述べた自由権・参政権・社会権をはじめとする人権規定の他、天皇・国会・内閣・司法・財政・地方自治といった統治機構の在り方が定められております。また戦争放棄を定めた第9条、憲法改正を定めた第96条、憲法の最高法規性を定めた第97条・第98条などが規定されており、日本国憲法は全103条の条文で構成されております。これらの条文それぞれには判例の他に様々な学説が唱えられており、例えば戦争放棄を定めた第9条に関して言えば、侵略戦争のみを放棄したと見る限定放棄説と自衛戦争・侵略戦争ともに放棄したと見る遂行不能説などがあります。

昨今の日本に目を移しますと、安全保障法制案に対する国会での審議が開始されました。今後も憲法改正をはじめ国家の在り方を問うような様々な国民的議論が出てくるでしょう。過去の英知たちが行ってきたように我々国民自らが憲法そして立憲主義を深く理解し憲法制定権者として国民の権利と自由を守り平和な世の中を継続していくことがより重要になると考える次第です。

平成 27 年度第 1 回例会講演会レジュメ (2)

講演題目：三重大大学の産学官連携による
地域イノベーション人材育成の現状と将来
講師：三重大学理事・副学長（研究・国際
交流担当）鶴岡信治（つるおかしんじ）氏

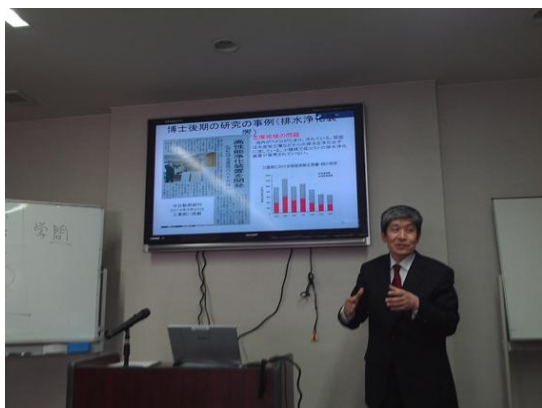


図 1 ご講演中の鶴岡先生

■ コンピューターの文字認識と地域イノベーション

表題は難解であるが、先生ご自身の実績・経験に基づいた極めて地に足がついた考え方であることが理解できた。電子工学および情報工学を基盤とし、手書き文字をコンピューターで認識する技術を開発・確立され、例えば、郵便配達業務における郵便番号の読み取り、分類システムを開発された（図 2）。郵便分類装置をハード・ソフト一体型で世の中に送り出されている。

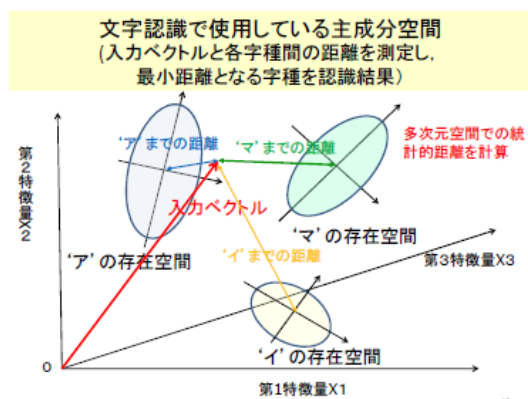


図 2 文字認識における統計処理

ローカルに開発された技術を、少しずつ改善し、ニーズに合わせ、改良し最後に結果として世の中を制するような技術へ成長させることが、まさに‘地域イノベーション’ではないか。

■ 根底にある考え方

通常、教養課程で、哲学や科学論を勉強するが、すべての学問の根源は哲学であり、技術は何のために開発するのかが問われなければならない。先生はシュンペータの考え方（図 3）を紹介されたが、さらに遡り図 4 に示すプラトンの閃きとアリストテレスの地に足がついた考え方を紹介された。

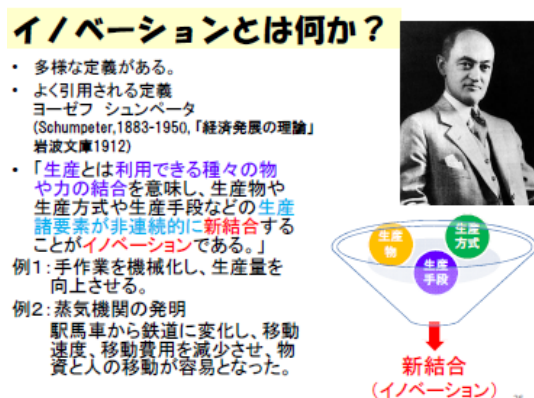


図 3 シュンペータの考え方



図 4 プラトン&アリストテレス

イノベーションを起こすには、両方が必要であると説かれた。

■地域イノベーション学研究科の特徴

図5に示すように、R&D（研究開発）教員とPM（プロジェクトマネジメント）教員によるサンドイッチ式で行われ、前者は基礎研究重視そして後者は産業界連携を視野に入れていることが特徴である。

R&D教員とPM教員によるサンドイッチ方式教育

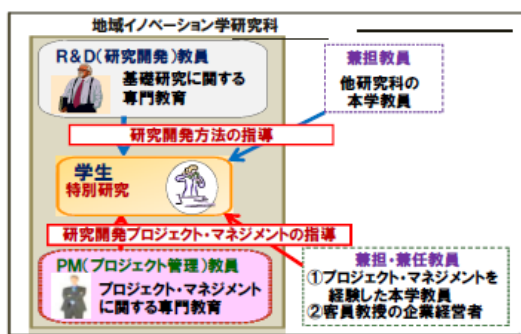


図5 地域イノベーション学研究科の教育

■どんな研究が行われているのか

図5に膜分離活性汚泥法廃水処理の改善事例を示す。従来の排水ろ過膜（塩素化ポリエチレン樹脂(CPE)）に比べ、より大きな穴の空いた新素材（フッ素樹脂：ポリテトラフルオロエチレン PTFE）膜を使用（世界初）し、2 倍の排水処理能力、1.5 倍の耐薬品性を発揮させ、大腸菌などの大きな微生物は濾過するが、ウイルスは濾過できない膜を開発した。したがって飲料水製造も視野に入っている。これは地域イノベーションの途上にあると理解された。

新素材を使用した平膜エレメントの開発

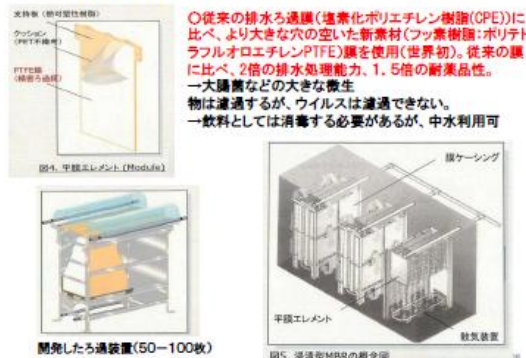


図6 膜分離活性汚泥法廃水処理の改善

■まとめ

三重大大学は、人文、教育、医学、工学、生物資源の5つの学部から構成される総合大学で、これらを束ね、連携することを受け皿と位置づけた上で、産業界とコワークすることで地域イノベーションに結実しようというスコープであった。図7で締めくくられたが、異分野との連携が糸口となることは論をまたないと理解できた。また、小さくても一つ一つ確実にものにすることが、結果として地域イノベーションに繋がると期待したい。

おわりに イノベーションは異分野の方との連携から

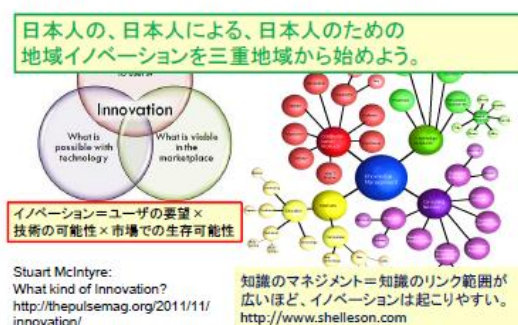


図7 異分野との連携

ご講演では「あなたのイノベータとしての資質に関する質問？」20問を提供され、対話形式で和気藹々の雰囲気が進められた。

以上

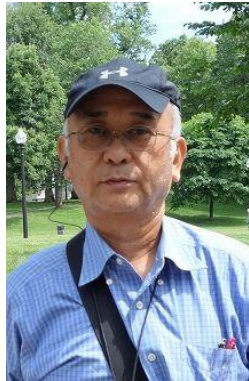
（文責 平田賢太郎）

会員近況報告

小林 祥二

(建設部門)

平成26年度に三重県技術士会に入会しました小林です。現在は、津市で測量・設計業務を行っている会社に勤務しています。



昭和44年神戸にある工業専門学校の土木学科を卒業し、初めての勤務先は、道路公団の豊田市にある事務所でした。

当時の学校の土木材料の講義では、セメントのアルカリ作用により鉄筋は、錆びないと教えられました。

従って土木構造物は、ローマの水道橋のように永久と思っていたので、現在の構造物の老朽化・損傷は、当時は、想像もしていませんでした。

東名高速道路は開通したばかりで保全に関する業務は、プレート・ガーダー橋の縦桁補強、伸縮装置の改良、盛り土法面の崩落復旧等の保全工事位でした。

その後全国を勤務しましたが、愛知県では、伊勢湾岸道路の建設や名古屋管理事務所での高速道路の保全管理を担当しました。

平成元年の名古屋での勤務の際、桑名市に自宅を建て、26年経ちました。

今まで担当した業務で一番記憶に残っていることは、管理していた道路が平成7年1月の阪神淡路大震災に遭遇したことです。

名神高速道路、中国自動車道その他高速道路が通行止めになり、早期開通に向け全力で業務にあたりました。

復旧を担当する組織は、大阪府吹田市にあり損傷を受けなかったことや、名神改築事業を行っていたゼネコンの協力により、復旧工事をスムーズに行うことができました。

その後NEXCOのコンサルタントを担当するグループ会社に就職し構造物の点検業務や情報システムを担当しました。

グループ会社を退社後、津市の現在の会社に勤務しています。

今までは、建設部門の技術士の方との付き合いしかなかったのですが、今後は三重支部の他の部門の方と親交を深め知見を広めたいと考えています。

最後に、技術士・技術士補のみなさまの今後のご活躍と三重県技術士会の発展を祈念致しまして、私の近況報告とさせていただきます。

谷口 一平

(建設部門)

私は大学を卒業し地質調査の仕事に就いて35年になります。就職時には取りあえず長男であり、



Uターンで地元四日市の企業にという事で現在の会社に勤めています。

そこでたまたま地質調査部に配属されることになり、地質ということ全くイメージしていなかった私にとって思いもよらない社会人の始まりとなりました。

地質調査は世間一般にあまり馴染みのない業種ではありますが、年々おもしろくなり、興味深く、とてもやり甲斐のある仕事になっていきました。

そして、今回あらためて同じ仕事を一つの会社で長く続けてきたのだなあという思いを強く感じています。

私は今年57才になります。最近では、現役でバリバリ仕事を続けることができるのもあと数年か、今後どの様な仕事ができるのか、何を後輩達に引き継いでいくのかなどそれまであまり思ったことがなかった事を考えるようになったような気がします。

そんな中、5月29日に官庁の土木・建築関係の職員の方を対象に研修会を行いました。これは三重県建設技術センターさんと三重県地質調査業協会が共催で毎年行っている地質調査に関する研修会です。

今年は名古屋の中部土質試験協同組合にて、「地質調査と土質試験」と言うタイトルで実地研修を行いました。

内容は野外でボーリング機械による掘削作業、原位置試験、サンプリングの実際の作業を、試験組合の中では各土質試験の方法や試験器具を見ていただくという研修です。

今年の参加者は42名で三重県から名古屋への移動のバスも満車であり大変ありがたい研修会でした。

私がこの研修会の企画や講師をすることになり15年がたちます。参加者が多いときはいいのですが、少ないときは次回の内容はどうしたらいいのか、研修自体を継続すべきかなど悩みもつきません。

業務の合間をぬってこのような協会活動を行うことは大変ですが、地質調査の発展のためにもあと数年、出来る限り頑張りたいと思っています。

今後の行事予定など

★みえテクノロジーカフェ★

第15回

日程：6月14日（日）10:00-12:00

場所：ラジカフェ 四日市一番街（サンシ東）

テーマ：家庭の省エネ徹底ガイド

第16回

日程：8月9日（日）10:00-12:00

場所：ラジカフェ 四日市一番街（サンシ東）

テーマ：温泉と土壌汚染のはなし

★例会★

第2回

日程：7月18日（土）

場所：じばさん三重

★役員会★

第2回

日程：7月18日（土）AM

場所：じばさん三重

第3回（産学官&技術士セミナー準備）

日程：9月26日（土）AM

場所：じばさん三重

★平成27年度第1回見学会★

三重県技術士会

「技術士みえ」発行及び責任者

平田 賢太郎（化学）

〒510-0954 三重県四日市市采女町430-3

平田技術士・労働安全コンサルタント事務所

プロセスインテグレーション㈱代表

TEL&FAX 059-346-8818

広報委員 西方伸広（機械）

土性 弘明（電気電子）

日程：9月 場所：未定